

第二次南箕輪村子ども読書活動推進計画



平成 25 年 3 月

南箕輪村教育委員会

第二次南箕輪村子ども読書活動推進計画

目 次

I	はじめに	
II	第一次計画（平成 19 年度～平成 23 年度）の取組・成果と課題	2
1	保育園における子どもの読書活動について	3
2	学校における子どもの読書活動について	3
3	地域における子どもの読書活動について	5
III	南箕輪村における子どもの読書活動の現状 ～子どもの読書活動に関するアンケート調査～	6
IV	第二次計画の基本方針・目標	16
V	第二次計画の推進	17
1	家庭における子どもの読書活動の推進	17
2	保育園における子どもの読書活動の推進	17
3	学校における子どもの読書活動の推進	18
3-1	小学校における子どもの読書活動の推進について	18
3-2	中学校における子どもの読書活動の推進について	19
4	地域における子どもの読書活動の推進	19
4-1	図書館における子どもの読書活動の推進について	19
4-2	保健センターにおける子どもの読書活動の推進について	20
VI	広報・啓発活動	21
VII	関係機関との連携・協力	21
《資料編》		
	用語解説	22
	南箕輪村子どもの読書活動に関するアンケート調査結果（南箕輪村図書館ホームページ『資料編』参照）	

*を付記した用語の解説は、資料編をご覧ください。

I はじめに

南箕輪村では、南箕輪村第4次総合計画第6章づく出しプロジェクト(子どもすくすくプロジェクト)の柱として、「楽しく読もうー幼いうちから読書に親しむ環境づくり」を掲げ、「家庭で読書に親しむ環境づくりの推進」、「村ぐるみで読書に親しむ雰囲気づくりの推進」を重点施策に位置づけ取り組んできました。子どもにとって読書活動は、「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」(「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条)です。

国は、子どもの読書活動を推進するため、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定しました。この法律に基づき、平成14年8月には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、平成20年3月に家庭教育に関する講座等を通じた保護者に対する理解の促進や、学校段階に応じた読解力の向上等を盛り込んだ「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(第二次)」を策定しました。

長野県においても、国の動向を踏まえ、平成16年4月に「長野県子ども読書活動推進計画」を策定し、平成21年3月に「第2次長野県子ども読書活動推進計画」を策定しました。

本村では、こうした国と県の動向を踏まえ、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第9条第2項の規定に基づき、平成19年4月に「南箕輪村子ども読書活動推進計画」(平成19年度～平成23年度)を策定しました。この計画に沿って、家庭、保育園、学校、地域(図書館、保健センター等)において子どもの読書活動の推進に取り組んできました。

このたび、当初の基本計画(以下「第一次計画」という。)の終了に伴い、第一次計画の方針を継承しながら、第一次計画で取り組んできた成果と課題を整理した上で計画の見直しを図り、「第二次南箕輪村子ども読書活動推進計画」(以下「第二次計画」)を策定します。第二次計画は、南箕輪村第4次総合計画、国と県の二次計画との整合性を図っていきます。

II 第一次計画(平成19年度～平成23年度)の取組・成果と課題

南箕輪村では、平成19年度から平成23年度までの5年間、子どもの読書活動を推進させるため、家庭、保育園、学校、地域(図書館、保健センター)等の関係機関がより密に連携・協力して、子どもの読書活動の普及に取り組んできました。これまでの取組・成果と課題について整理しました。

1 保育園における子どもの読書活動について

＜ 取組・成果 ＞

- 全園で週一度、保育園や図書館の絵本を家庭に貸出して、親子で絵本を楽しんでもらうよう取り組みました。
- 新たな取組として、全園で登園後クラスごとに絵本の読み聞かせを実施しました。
- 各園の実情に応じて、読み聞かせに使用した絵本を玄関先に展示して、保護者や園児に絵本の紹介をしました。
- 各園の実情に応じて、保護者懇談会などの機会に、家庭における読み聞かせの重要性について理解を促す講演会を実施しました。
- 集団の読み聞かせに適した大型絵本の購入など、保育園の絵本を充実することができました。

＜ 課題 ＞

保育園において子どもが絵本にふれあう機会は多くなっていますが、家庭において子どもが字を読めるようになると絵本の読みきかせをやめてしまう保護者も多いため、読み聞かせについて保護者に正しく理解してもらえるよう伝えていく必要があります。

2 学校における子どもの読書活動について

2-1 小学校における読書活動について

＜ 取組・成果 ＞

- 各学校の実情に応じて、週1～2回 一斉読書(朝読書*)を実施しました。静かに読書に励んでおり、授業前に心を落ち着かせてから学校生活に入っていくことができました。
- 各学校の実情に応じて、図書館利用のオリエンテーション*、読書週間*・読書旬間*(具体的には読書郵便*、ペープサート*による劇、先生方おすすめの本の紹介や読み聞かせ、学習支援ボランティアによる読み聞かせ、各学年読書に関する読書発表、葉のプレゼントなど)、イラストコンテスト*、授業に関連した図書の展示など、児童が読書に興味を持つような読書に関連した行事を実施しました。
- 親子読書推進のため授業参観に合わせ、スペースの広い廊下を利用して図書の展示を実施するなど、各学校の実情に合わせて家庭での読書活動を促進しました。
- 地域のボランティアの協力により、読み聞かせなどの子どもの読書活動を充実させることができました。
- 各教科の学習を進める上で必要な参考図書の充実を図り、授業に活用しました。
- 本を探しやすくするため、配架の工夫をしました。
- 定期的に学校図書館だよりを発行しました。
- 一部の時間帯を地域開放している南部小学校図書館では、おはなし会や廃棄雑誌のプレゼントの実施・社会開放向け図書館だよりの発行など行い、学校図書館の利用促進に努めました。

＜ 課題 ＞

- 高学年になるにつれ読書離れの傾向が見られるため、お薦め図書リストの作成や、学級担任と連携して新刊図書、教科書関連作品の紹介をして、読書への興味を喚起していく必要があります。
- 児童が増えているため、資料の充実とともに書架スペースの確保が必要です。
- 地域開放を行う南部小学校図書館では、児童書の充実に伴い、一般書のスペースが少なくなってきました。書架に限りがありますが、親子での図書館利用を促すには一般書の充実も必要です。

2-2 中学校における読書活動について

＜ 取組・成果 ＞

- 毎朝10分間、一斉読書(朝読書)を実施しました。授業前に一斉読書に取り組むことが定着して、心を落ち着けてから授業に入っていけるようになりました。
- 図書館利用のオリエンテーション、図書委員会による図書館の日や読書週間・読書旬間(具体的には図書委員や先生方による本の紹介ポスターの掲示、各クラスへのブックデリバリー*など)、生徒の読書体験の情報交換など生徒が読書に興味を持つような読書関連行事を実施しました。
- 図書館掲示板を使い、購入図書・推薦図書の紹介、各種ポスターや新聞等の展示や掲示を行い、図書館からの情報を随時提供しました。
- 定期的に学校図書館だよりを発行しました。
- 生徒の読書の傾向を知るため、読書記録による調査を行い、図書購入の参考にしました。
- 生徒の心の糧になったり、読書意欲を喚起させられる図書や、最新のデータが掲載されている図書を購入して、図書資料の充実を図りました。また先生や生徒から要望のあった図書を購入したり、村図書館から借りて提供しました。
- 生徒が図書館に親しみを持てるような装飾や配架を工夫しました。

＜ 課題 ＞

- 朝読書の本について読書記録の調査を実施したところ、家庭の持ち込みも許可しているため漫画の原作本や携帯小説も多く読まれていることがわかりました。生徒の発達段階を考慮した読み聞かせやブックトーク*を行い、「中学時代に読ませたい本」へ目を向けさせることも必要です。
- 生徒が図書館を有効に活用できるように、調べ学習のためのレファレンス演習が必要です。
- 地域のボランティアに読みきかせをお願いする機会を持てなかったため、今後はボランティアと連携・協力して、生徒の読書活動を推進していく必要があります。
- 蔵書数が「学校図書館図書標準*」に達していないため、資料の充実を図るとともに保存スペースや設備の整備について検討していく必要があります。

3 地域における子どもの読書活動について

3-1 図書館における読書活動について

< 取組・成果 >

- 平成 21 年度から十ヶ月児(平成 23 年度から七ヶ月児)を対象にブックスタート*事業を開始しました。住民福祉課と連携して、保健センターで行われる乳児健診時にファーストブック*として絵本を一冊贈りました。
- 乳幼児向けのおはなし会、幼児向け・小学低学年向けの定期的なおはなし会を実施しました。幼児向け・小学低学年向けのおはなし会では、地域ボランティアの協力を得てバラエティに富んだ内容で実施できました。
- 出前講座として、子育て支援センターで乳幼児向けのおはなし会の定期的な実施や、地区公民館で児童向けおはなし会を実施できました。
- 図書の貸出を通じて、保育園、学校、保健センター等の読書活動を支援することができました。
- 定期的に図書館だよりを発行しました。
- 平成 18 年度から平成 23 年度の図書館年代別利用状況は次のとおりです。

幼児の利用人数・貸出点数がともに減っています。小学生については利用人数が減っているものの、貸出点数が増えていることから、特定の小学生が熱心に借りていることがわかります。中学生については利用状況・貸出点数ともに大幅に減っています。高校生は第一次計画に取り組む前の平成 18 年度に比べると、利用人数・貸出点数ともに増えています。

(利用状況)

(単位:人)

対象	18 年度	19 年度	*20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
幼児	5,116	4,841	3,598	4,288	4,170	4,192
小学生	5,441	5,387	4,350	5,332	5,085	5,162
中学生	1,875	1,864	1,136	1,384	1,398	1,147
高校生	546	756	541	608	823	734

(貸出状況)

(単位:点)

対象	18 年度	19 年度	*20 年度	21 年度	22 年度	23 年度
幼児	18,244	16,910	15,765	15,303	15,279	15,437
小学生	17,002	17,550	17,239	17,646	17,565	18,482
中学生	5,523	5,283	3,729	4,062	3,554	3,080
高校生	1,528	2,187	2,001	1,733	2,156	2,071

*平成 20 年度は交流施設の増築・図書館システムの更新のため、開館日数が例年よりおよそ 60 日少なかった。

< 課題 >

- 幼児・小学生・中学生の利用人数が減っていることから、学校以外に塾や習い事、部活動に忙しい子どもが時間を割いてでも利用したくなるような魅力的な公共図書館のあり方について検討が必要です。

○幼児・小学生向けのおはなし会に、小学生の参加が少なくなっています。

○読書感想文コンクールを継続的に実施できませんでした。

3-2 保健センターにおける読書活動について

＜ 取組・成果 ＞

○発達・子育て支援教室のなかで、絵本、紙芝居などの読み聞かせを取り入れることで、絵本に対する興味が高まり、徐々に集中して聞けるようになりました。

○同じく発達・子育て支援の教室のなかで、親子が図書館へ出向き絵本を借りるなど施設の利用をすることで、絵本に興味を持ち、その後の図書館の利用につなげることができました。

＜ 課題 ＞

乳幼児健診で絵本を紹介するのは乳児期1回のみなので、その後の月齢でどの位絵本が読まれているか把握できていません。幼児期にも発達段階に応じた絵本の選び方や、絵本を通しての親子のコミュニケーションの大切さ、絵本を読むことで子どもの心が豊かになるなど読み聞かせの重要性について保護者向けに啓発していく必要があります。

Ⅲ 南箕輪村における子どもの読書活動の現状

～子どもの読書活動に関するアンケート調査～

計画の策定にあたり、南箕輪村の子どもたちの読書活動に関する現状を把握するため、次のとおりアンケート調査を実施しました。（詳細については資料編を参照ください）

調査時期：平成 24 年 10 月下旬～11 月上旬

調査対象：村内保育園児と保護者 629 人 回答 519 人(回収率 83%)

村内小学生 930 人 回答 854 人(回収率 92%)

村内中学生 477 人 回答 465 人(回収率 97%)

調査方法：保育園児と保護者 調査用紙を家庭に持ち帰り、保護者が回答

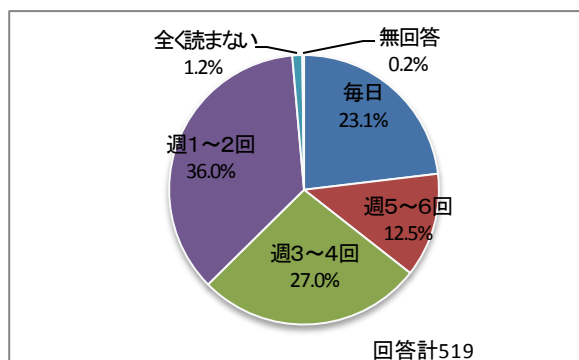
小学1年生～小学3年生 調査用紙を家庭に持ち帰り、保護者と回答

小学4年生～小学6年生・中学生 クラスごと学校で一斉実施、本人が回答

(保育園児の状況)

■ お子さんに家で週どのくらい絵本を読んであげていますか

	回答数	割合
毎日	120	23.1%
週5～6回	65	12.5%
週3～4回	140	27.0%
週1～2回	187	36.0%
全く読まない	6	1.2%
無回答	1	0.2%
計	519	

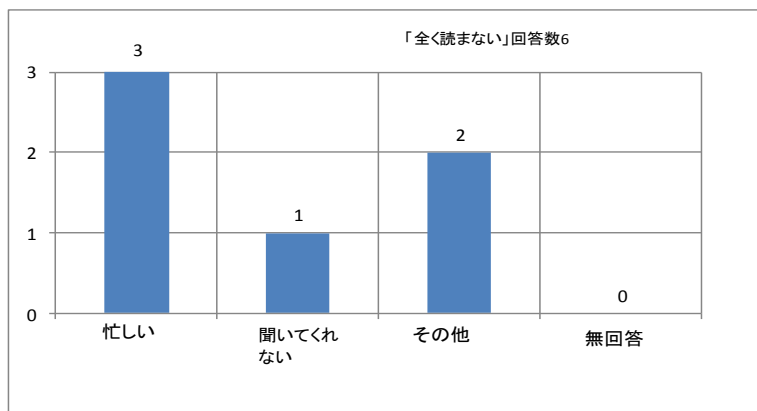


「週1～2回(36.0%)」が最も多く、次いで「週3～4回(27.0%)」が続く、「毎日読む(23.1%)」も2割以上いました。

「毎日読む」について年齢別※に見ると、年少が35.1%、未満児が21.0%、年中が19.6%、年長が16.4%と年齢が高くなるにつれて、その割合が低くなっています。

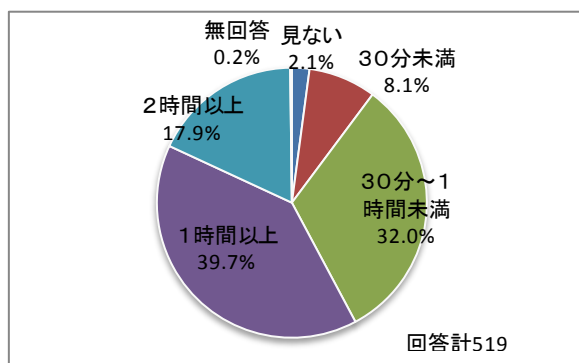
■ 上記の質問で「全く読まない」と答えた方は、読まない理由・読めない理由は何ですか (複数回答もあるので、グラフは回答数で表示)

	回答数
忙しい	3
聞いてくれない	1
その他	2
無回答	0
計	6



■ 平日、お子さんがテレビやDVDを見る時間は1日どのくらいですか

	回答数	割合
見ない	11	2.1%
30分未満	42	8.1%
30分～1時間未満	166	32.0%
1時間以上	206	39.7%
2時間以上	93	17.9%
無回答	1	0.2%
計	519	



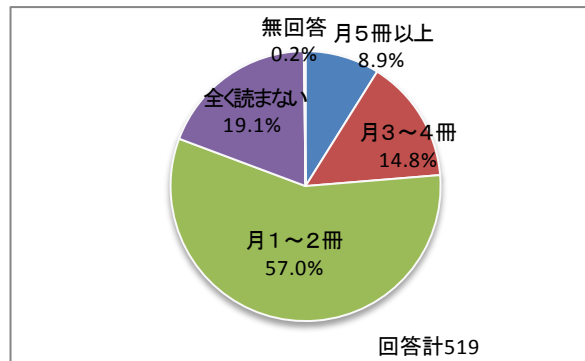
「1時間以上(39.7%)」が最も多く、次いで「30分～1時間未満(32.0%)」が続きました。

「2時間以上(17.9%)」について年齢別に見ると、未満児が12.6%、年少が15.3%、年中が20.3%、年長が23.3%と年齢が高くなるにつれて、その割合が高くなっています。

※アンケート調査の《年齢別》結果は、資料編をご覧ください。

- 保護者のみなさんは、お子さんへの読み聞かせ以外で、本や雑誌を1ヶ月にどのくらい読みますか

	回答数	割合
月5冊以上	46	8.9%
月3～4冊	77	14.8%
月1～2冊	296	57.0%
全く読まない	99	19.1%
無回答	1	0.2%
計	519	

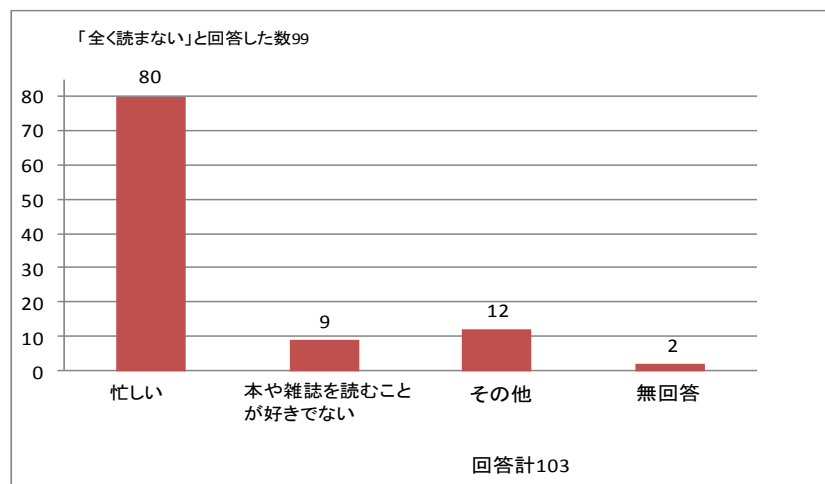


「月1～2冊 (57.0%)」が圧倒的に多く、次いで「全く読まない (19.1%)」、「月3～4冊 (14.8%)」が続きました。

「全く読まない」について年齢別に見ると、年少が 15.3%、年中が 19.0%、未満児が 21.0%、年長が 21.6%の順で、その割合が高くなっています。

- 上記の質問で「全く読まない」と答えた方は、読まない理由・読めない理由は何ですか
(複数回答もあるので、グラフは回答数で表示)

	回答数
全く読まない	99
忙しい	80
本や雑誌を読むことが好きでない	9
その他	12
無回答	2
計	103



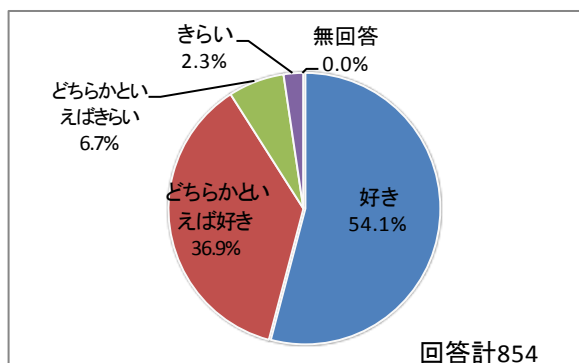
全く読まない(読めない)理由としては、「忙しい(80 人)」という理由が圧倒的に多く、「本や雑誌を読むことが好きではない(9人)」や、その他「時間がないので、新聞を読む(3人)」「本を買わない(2人)」などがありました。

※アンケート調査の《年齢別》結果は、資料編をご覧ください。

(小学生の状況)

■ あなたは本を読むことが好きですか

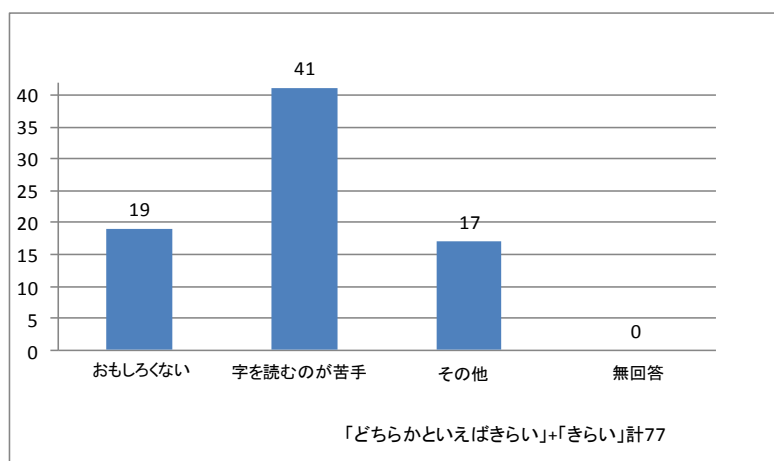
	回答数	割合
好き	462	54.1%
どちらかといえば好き	315	36.9%
どちらかといえばきらい	57	6.7%
きらい	20	2.3%
無回答	0	0.0%
計	854	



「好き(54.1%)」と「どちらかといえば好き(36.9%)」とを合わせると、9割以上の児童が本を読むことが好きだと回答しています。一方で、「どちらかといえばきらい(6.7%)」、「きらい(2.3%)」と回答した児童も9.0%います。

■ 上記の質問で、「どちらかといえばきらい」「きらい」と答えた人は、どんな理由からですか (複数回答もあるので、グラフは回答数で表示)

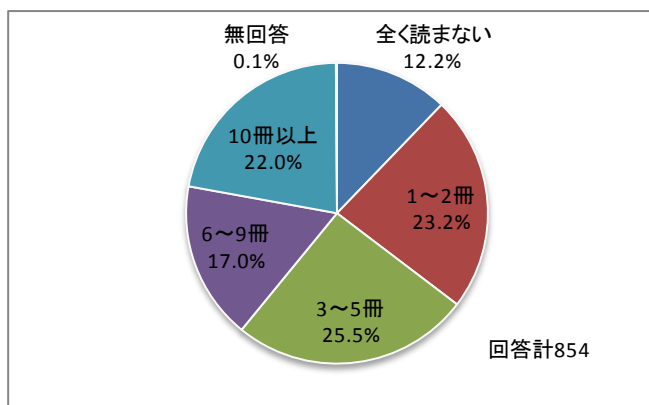
	回答数
どちらかといえばきらい	57
きらい	20
計	77
おもしろくない	19
字を読むのが苦手	41
その他	17
無回答	0



「どちらかといえばきらい」「きらい」の理由として、「字を読むのが苦手(41人)」、「おもしろくない(19人)」、その他「めんどくさい(5人)」「外で遊ぶ方が好き(3人)」「つまらない(2人)」などがありました。

■ 学校以外で、最近1ヶ月に本を何冊読みましたか(マンガや雑誌をのぞく)

	回答数	割合
全く読まない	104	12.2%
1～2冊	198	23.2%
3～5冊	218	25.5%
6～9冊	145	17.0%
10冊以上	188	22.0%
無回答	1	0.1%
計	854	



「3～5冊(25.5%)」が最も多く、次いで「1～2冊(23.2%)」が続き、「10冊以上(22.0%)」も2割

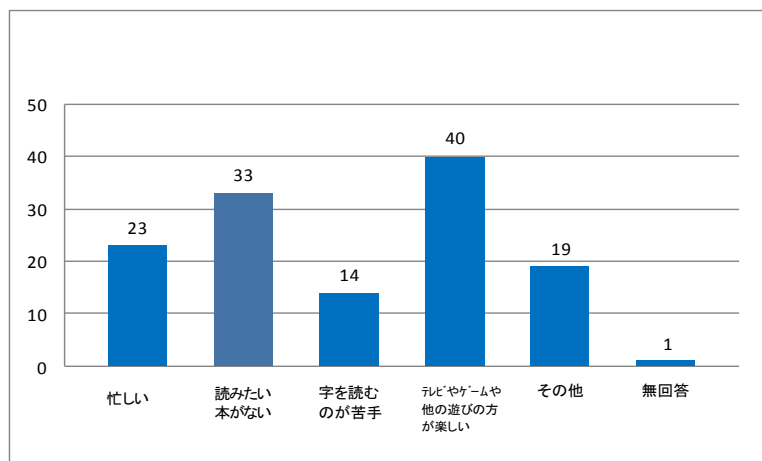
を超えています。

一方で「全く読まない(12.2%)」も1割以上いて、学年別に見ると、小1が 5.8%、小2が 5.4%、小3が 9.0%、小4が 14.3%、小5が 15.8%、小6が 21.4%と学年が上がるにつれて、その割合が高くなる傾向があります。

■ 上記の質問で「全く読まない」と答えた方は、読まない理由・読めない理由は何ですか

(複数回答もあるので、グラフは回答数で表示)

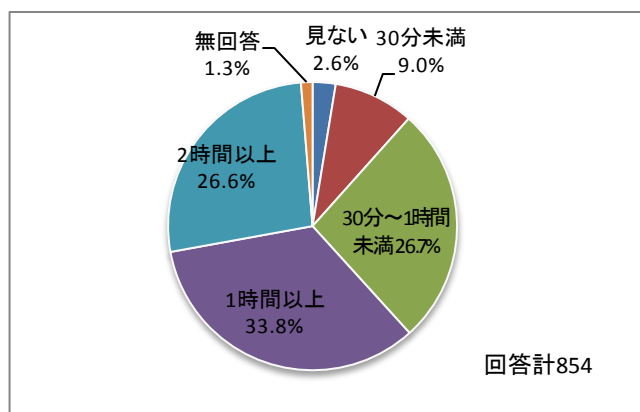
	回答数
全く読まない	104
忙しい	23
読みたい本がない	33
字をよむのが苦手	14
TVやゲームや他の遊びの方が楽しい	40
その他	19
無回答	1



読まない(読めない)理由として、「忙しい(23人)」より、「テレビやゲームや他の遊びの方が楽しい(40人)」「読みたい本がない(33人)」が多くあげられました。その他には「家に本がない(5人)」「雑誌しか読まない(2人)」「面倒(2人)」という理由がありました。

■ 平日、テレビやDVDを見る時間は1日どのくらいですか

	回答数	割合
見ない	22	2.6%
30分未満	77	9.0%
30分～1時間未満	228	26.7%
1時間以上	289	33.8%
2時間以上	227	26.6%
無回答	11	1.3%
計	854	



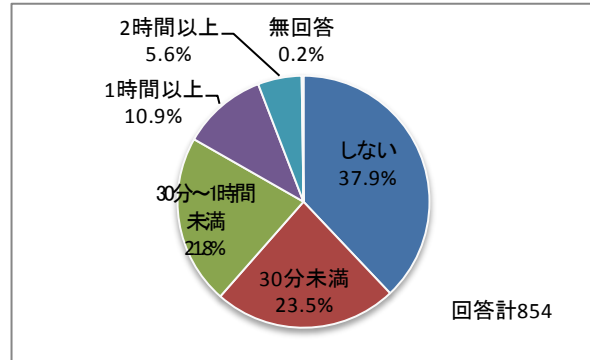
「1時間以上(33.8%)」が最も多く、次いで「30分～1時間未満(26.7%)」が続きました。平日に限定した質問に関わらず、「2時間以上」テレビやDVDを見ている児童が3割近く(26.6%)いました。

「2時間以上」見ている児童は学年別に見ると、小1が 19.4%、小2が 20.0%、小3が 26.2%、小4が 23.6%、小5が 31.5%、小6が 37.0%と学年が高くなるにつれ、その割合も高くなる傾向があります。

※アンケート調査の《年齢別》結果は、資料編をご覧ください。

■ 平日、ゲーム機やパソコンでゲームをする時間は1日どのくらいですか

	回答数	割合
しない	324	37.9%
30分未満	201	23.5%
30分～1時間未満	186	21.8%
1時間以上	93	10.9%
2時間以上	48	5.6%
無回答	2	0.2%
計	854	

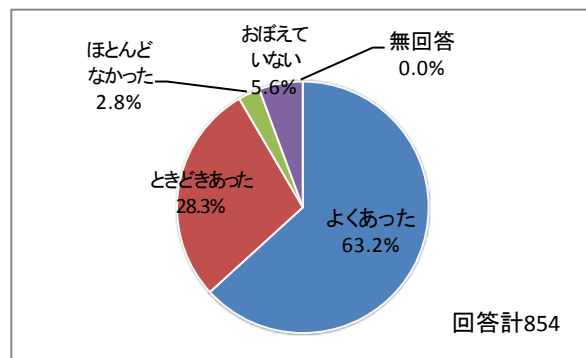


「しない(37.9%)」が最も多く、「30分未満(23.5%)」、「30分～1時間未満(21.8%)」と続きました。平日でもテレビやDVDの視聴だけでなく、ゲーム機やパソコンでゲームをしている児童がいることがわかりました。ただテレビやDVDの視聴時間よりは、ゲームの時間は抑制されているようです。

しかし「1時間以上(2時間以上含む)」ゲームをしている児童も 16.5%いて、学年別に見ると、小1が 5.7%、小2が 13.0%、小3が 15.9%、小4が 12.8%、小5が 16.5%、小6が 33.1%と学年が上がるにつれて、その割合が高くなる傾向があります。

■ 小さい時、本を読んでもらったことがありますか

	回答数	割合
よくあった	540	63.2%
ときどきあった	242	28.3%
ほとんどなかった	24	2.8%
おぼえていない	48	5.6%
無回答	0	0.0%
計	854	



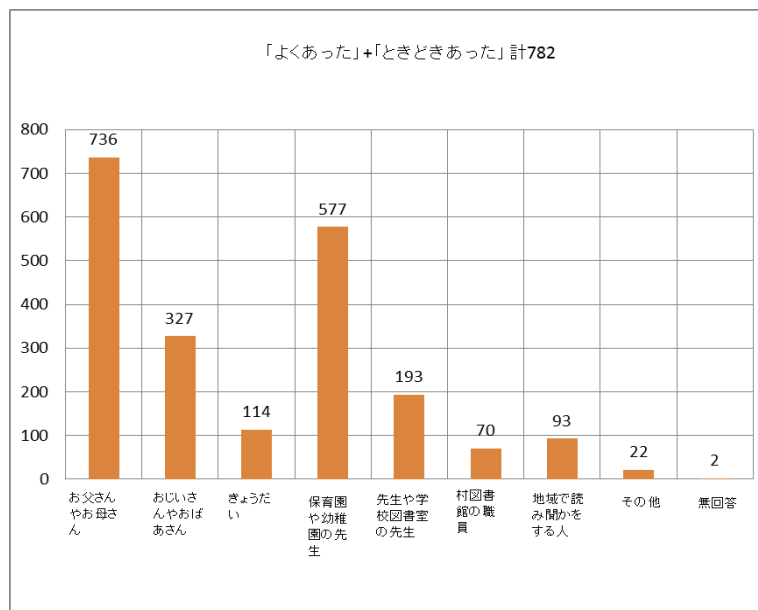
よくあった(63.2%)と「ときどきあった(28.3%)」とを合わせると、9割以上が小さい頃本を読んでもらった経験がありました。

「よくあった」「ときどきあった」と答えた児童について学年別に見ると、小2が 98.4%、小1が 97.2%、小3が 93.1%、小4が 90.7%、小6が 86.4%、小5が 84.9%の順で割合が高く、「学校以外で、最近1ヶ月に何冊本を読みましたか」(P9)という質問で、1冊以上読んでいる児童は小2が 94.6%、小1が 94.2%、小3が 91.0%、小4が 85.7%、小5が 83.5%、小6が 78.6%と言う結果から、小さい頃に読んでもらった経験や記憶がある児童は本を読む傾向があることが推測されます。

※アンケート調査の《年齢別》結果は、資料編をご覧ください。

■ 「よくあった」「ときどきあった」と答えた方は、読んでくれたのは誰ですか

	回答数
よくあった	540
ときどきあった	242
計	782
お父さんやお母さん	736
おじいさんやおばあさん	327
きょうだい	114
保育園や幼稚園の先生	577
先生や学校図書室の先生	193
村図書館の職員	70
地域で読み聞かせをする人	93
その他	22
無回答	2

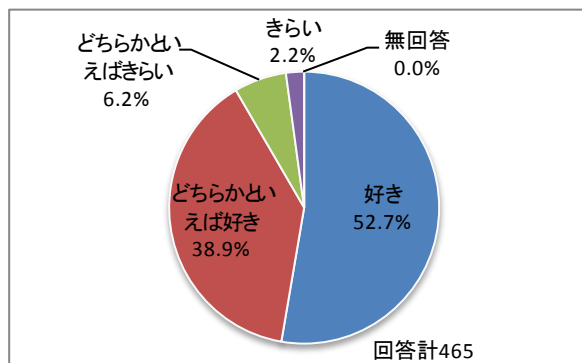


「お父さんやお母さん(736人)」「おじいさんやおばあさん(327人)」「きょうだい(114人)」など「家族」と回答した人が多くいました。また「保育園や幼稚園の先生(577人)」「先生や学校図書室の先生(193人)」など「先生」と回答した人も「家族」同様多いことがわかりました。「地域で読み聞かせをする人(93人)」「村図書館の職員(70人)」など「地域の人」もあがっています。

(中学生の状況)

■ あなたは本を読むことが好きですか

	回答数	割合
好き	245	52.7%
どちらかといえば好き	181	38.9%
どちらかといえばきらい	29	6.2%
きらい	10	2.2%
無回答	0	0.0%
計	465	



「好き(52.7%)」と「どちらかといえば好き(38.9%)」とを合わせて、9割以上の生徒が本を読むことが好きと回答しています。一方で「どちらかといえばきらい(6.2%)」、「きらい(2.2%)」と回答した生徒も8.4%います。

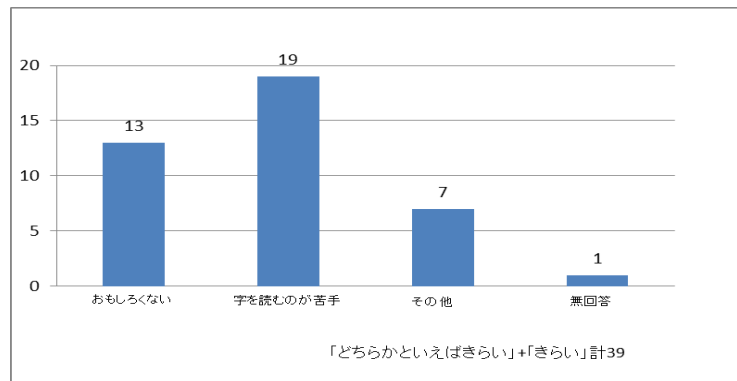
小学生のアンケート結果では、「好き(54.1%)」「どちらかといえば好き(36.9%)」と回答した児童が91.0%でしたので、小学生とほぼ同じ割合であることがわかりました。

※アンケート調査の《年齢別》結果は、資料編をご覧ください。

■ 上記の質問で、「どちらかといえばきれい」「きれい」と答えた人は、どんな理由からですか

(複数回答もあるので、グラフは回答数で表示)

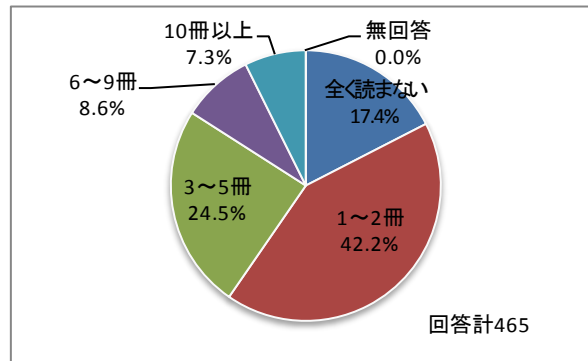
	回答数
どちらかといえばきれい	29
きれい	10
計	39
おもしろくない	13
字を読むのが苦手	19
その他	7
無回答	1



理由として、「字を読むのが苦手(19 人)」、「おもしろくない(13 人)」、その他「興味がある本がない(3人)」「面倒くさい(2人)」「忙しい(2人)」「長い(2名)」などがありました。

■ 学校以外で、最近1ヶ月に本を何冊読みましたか(マンガや雑誌をのぞく)

	回答数	割合
全く読まない	81	17.4%
1～2冊	196	42.2%
3～5冊	114	24.5%
6～9冊	40	8.6%
10冊以上	34	7.3%
無回答	0	0.0%
計	465	



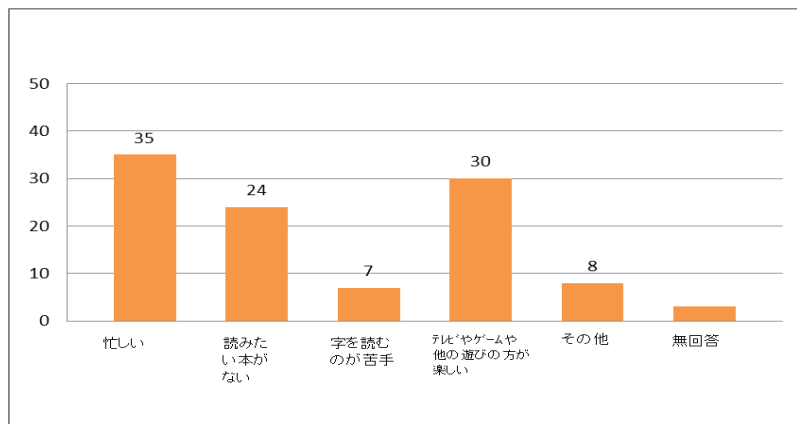
「1～2冊(42.2%)」が圧倒的に多く、次いで「3～5冊(24.5%)」が続きました。「全く読まない」生徒も17.4%いました。

「全く読まない」について学年別に見ると、中1が14.4%、中2が18.0%、中3が20.0%と学年が上がるにつれて、その割合が高くなっています。ただ小6の「全く読まない(21.4%)」と言うアンケート結果と比べると、中学生になっても比較的読んでいることがわかります。

※アンケート調査の《年齢別》結果は、資料編をご覧ください。

- 上記の質問で「全く読まない」と答えた方は、読まない理由・読めない理由は何ですか
(複数回答もあるので、グラフは回答数で表示)

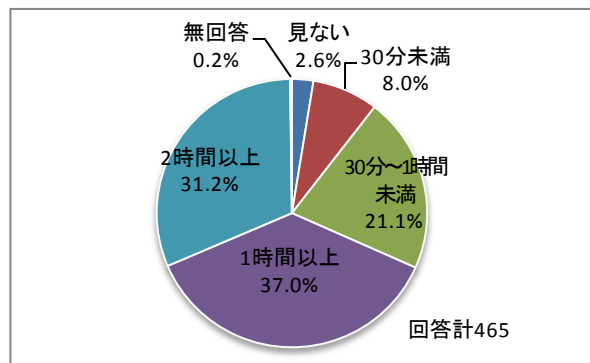
	回答数
全く読まない	81
忙しい	35
読みたい本がない	24
字をよむのが苦手	7
TVやゲームや他の遊びの方が楽しい	30
その他	8
無回答	3



全く読まない(読めない)理由として、「忙しい(35人)」が多く、「テレビやゲームや他の遊びが楽しい(30人)」、「読みたい本がない(24人)」が続きました。その他の理由では、「雑誌、マンガ、携帯小説などを読む(2人)」、「読む時間がない(2人)」などがありました。

- 平日、テレビやDVDを見る時間は1日どのくらいですか

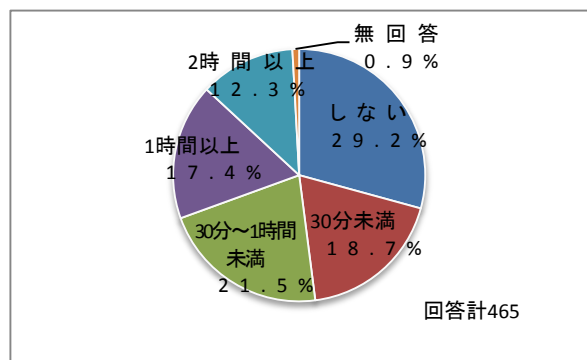
	回答数	割合
見ない	12	2.6%
30分未満	37	8.0%
30分～1時間未満	98	21.1%
1時間以上	172	37.0%
2時間以上	145	31.2%
無回答	1	0.2%
計	465	



「1時間以上(37.0%)」が最も多く、次いで「2時間以上(31.2%)」が続きました。平日に限定した質問にも関わらず、中学生の7割近くが「1時間以上」テレビやDVDを見ています。小学生のアンケート結果では「1時間以上」見ている児童は6割なので、小学生より割合が高いことがわかります。

- 平日、ゲーム機やパソコンでゲームをする時間は1日どのくらいですか

	回答数	割合
しない	136	29.2%
30分未満	87	18.7%
30分～1時間未満	100	21.5%
1時間以上	81	17.4%
2時間以上	57	12.3%
無回答	4	0.9%
計	465	

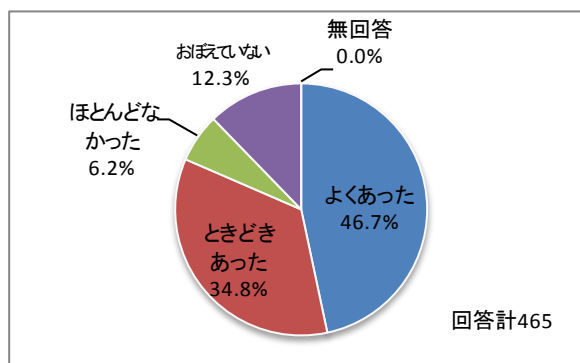


「しない(29.2%)」が最も多く、次いで「30分～1時間未満(21.5%)」、「1時間以上(17.4%)」と続きました。小学生のアンケート結果では、「しない」が37.9%でしたので、中学生になるとゲーム機

やパソコンでゲームをする人が増えていることがわかります。

■ 小さい時、本を読んでもらったことがありますか

	回答数	割合
よくあった	217	46.7%
ときどきあった	162	34.8%
ほとんどなかった	29	6.2%
おぼえていない	57	12.3%
無回答	0	0.0%
計	465	

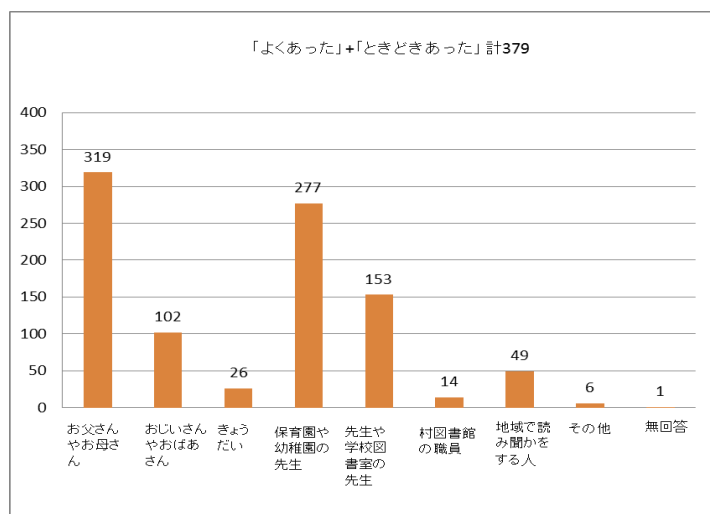


「よくあった(46.7%)」「ときどきあった(34.8%)」と8割以上の生徒が、小さい頃本を読んでもらった経験や記憶があることがわかりました。

「よくあった」「ときどきあった」と答えた生徒について学年別に見ると、中1が 86.3%、中2が 79.3%、中3が 78.7%の順に高く、「学校以外で、最近1ヶ月に何冊本を読みましたか」(P13)という質問で、1冊以上読んでいる生徒は中1が85.6%、中2が82.0%、中3が80.0%の順に高かった結果から、小学生のアンケート結果同様、小さい頃に本を読んでもらった経験や記憶がある生徒は本を読む傾向があることが推測されます。

■ 「よくあった」「ときどきあった」と答えた方は、読んでくれたのは誰ですか

	回答数
よくあった	217
ときどきあった	162
計	379
お父さんやお母さん	319
おじいさんやおばあさん	102
きょうだい	26
保育園や幼稚園の先生	277
先生や学校図書室の先生	153
村図書館の職員	14
地域で読み聞かせをする人	49
その他	6
無回答	1



「お父さんやお母さん(319人)」「おじいさんやおばあさん(102人)」「きょうだい(26人)」など「家族」と回答した人が多くいました。また「保育園や幼稚園の先生(277人)」「先生や学校図書室の先生(153人)」など「先生」と回答した人も「家族」同様多いことがわかりました。

小学生のアンケート結果同様、中学生も「家族」や「先生」に読んでもらった経験が多いことがわかりました。

※アンケート調査の《年齢別》結果は、資料編をご覧ください。

IV 第二次計画の基本方針・目標

1 基本方針

子どもが自主的な読書活動を習慣づけるには、乳幼児から保護者とともに読書に親しむことが大切です。

家庭、保育園、学校、地域(図書館、保健センター等)において、親子で読書を楽しめる体験ができる機会を積極的につくり、子どもにとって読書活動が日常習慣となるような支援が必要です。

南箕輪村では、当村に育つすべての子どもが読書を通じて楽しみや喜びを味わい、豊かな心を育むとともに自ら学び考える力を養い、やがては困難に直面したときでも乗り越えていける「生きる力」を身につけられるよう、子どもの成長に応じて読書に親しめる具体的な取組を掲げ、子どもの読書活動を推進するとともに、読書活動に必要な環境整備に努めます。

本計画は、南箕輪村における「子どもの読書活動」を推進するための基本的な考えや取組を示したものです。

本計画の取組期間は、平成 25 年度から平成 29 年度までの5年間です。

2 目標

1 計画の基本目標

家族みんなで本に親しもう

2 村ぐるみの取組項目

- ・ 週 1 回、家族みんなで楽しく読書
- ・ 毎月 23 日※は、ノーテレビデー・ノーゲームデー*・家族で読書の日
- ・ 読書週間（10 月 27 日～11 月 9 日）は村ぐるみで読書推進

※「子ども読書の日」*（4 月 23 日）にちなんで、毎月 23 日とします。

3 計画の数値目標

（保育園児）

■家で週に絵本を読んでもらう回数の割合

（平成 24 年度調査）週 2 回以下 37.2% → （平成 29 年度）1 割減

（小学生）

■学校以外で、1 ヶ月に読む本の冊数の割合

（平成 24 年度調査）月 2 冊以下 35.4% → （平成 29 年度）1 割減

（中学生）

■学校以外で、1 ヶ月に読む本の冊数の割合

（平成 24 年度調査）月 2 冊以下 59.6% → （平成 29 年度）1 割減

平成 24 年度の数値は平成 24 年度実施の「南箕輪村子どもの読書活動に関するアンケート調査結果」より

V 第二次計画の推進

1 家庭における子どもの読書活動の推進

(1) 子どもの読書活動の推進における家庭の役割

家庭において、子どもが読書の習慣を身につけるために、保護者の読書に関する理解が重要です。テレビ、ゲーム、インターネット、メールに長時間費やすことがないよう「ノーテレビデー、ノーゲームデー」を設定して、親子で読書を楽しむ時間を持ってコミュニケーションを図れるように、家庭の中で保護者が子どもの行動を見守り、環境づくりをすることが大切です。

(2) 家庭における子どもの読書活動推進のための具体的な取組

- 乳幼児健診・相談等の保護者が集まる機会を利用して、絵本を通して親子のコミュニケーションを図ることの重要性を説明して、家庭での読書環境づくりについて呼びかけます。
- 保育園、学校、地域(図書館、保健センター等)において、家庭における読書活動の啓発と、図書情報の提供を行います。
- 図書館において乳幼児、幼児・小学校低学年向けおはなし会の開催や、親子向け読書講演会を開催して、親子で読書に親しむ機会をつくれます。

2 保育園における子どもの読書活動の推進

(1) 子どもの読書活動の推進における保育園の役割

保育園は、家庭と同様、子どもが多く時間を過ごす場であり、全ての子どもに等しく絵本を提供できる最適な場所です。絵本を通して、豊かな言葉を知り、絵本の楽しさを日常的に体験できる場所であり、幼児期において読書習慣の基礎を築く、重要な役割を担っています。

(2) 保育園における子どもの読書活動推進のための具体的な取組

- 登園後、クラスごとに絵本の読みきかせを実施します。また各園の実情に応じて、保護者、園児向けに読んだ絵本の展示をします。
- 引き続き週に1度、保育園や図書館の絵本を家庭に貸出して、親子で絵本を楽しむように取り組みます。家庭に貸出す際には、「絵本カード」に借りた絵本を記入して、年間を通して読んだ絵本がわかるように記録します。
- 年度末に家庭へ絵本を貸出す取組についての感想を保護者から寄せてもらい、各園から抜粋した感想をまとめ家庭へ配布します。
- 家庭で絵本を選ぶ参考にしてもらうため推薦絵本のリストや、家庭における読書活動の意義

を伝えるためおたよりを配布して、家庭での読書活動の啓発に努めます。

- 各園の実情に応じて、あらゆる機会に年齢、発達段階、季節に応じた絵本や紙芝居の読みかきを行い、子どもたちが楽しめるように工夫します。また絵本の読み聞かせから「ごっこ遊び」や「歌あそび」に発展させます。
- 各園の実情に応じて、図書館や南部小学校図書館と連携を深め、子どもが公共図書館を利用することで、沢山の本にふれて、図書館に興味を持つきっかけをつくります。また司書に絵本の読み聞かせやパネルシアター*を演じてもらうなど、積極的におはなしの世界を楽しむ機会をつくります。
- 保育者は読み聞かせの技量を高めるための研修に参加します。
- 好奇心旺盛な子どもが好きな分野の絵本を探せるよう幅広い分野の絵本を用意し、子どもが自由に絵本に触れられ、絵本を選べる環境を整備します。

3 学校における子どもの読書活動の推進

(1) 子どもの読書活動の推進における学校及び学校図書館の役割

学校図書館は教科学習の発展に寄与する情報センターとして、また豊かな心を育む読書センターとして、学校における中核機関であることから、児童・生徒にとって読書に親しみ、知りたいことを本で調べる力を培える大切な場所です。子どもが読書に親しむ態度を育成し、読書習慣を身につけていく上で、大きな役割を担っています。

(2) 学校における子どもの読書活動の推進のための具体的な取組

3-1 小学校における子どもの読書活動の推進について

- 子どもの成長や環境にあった読書指導をします。
- 各学校の実情に応じて、朝読書や読書活動の時間を作り、一層の普及を図ります。
- 小学校高学年以上になると読書離れの傾向が見える現状を踏まえ、お薦め図書のリスト作成や新刊図書の紹介をして、小学校高学年以上の子どもが読書活動に興味や関心を持つように取り組みます。
- 各学校の実情に応じて、読書週間・読書旬間(具体的には読書郵便、ペープサートによる劇、先生方おすすめの本の紹介や読み聞かせ、学習支援ボランティアによる読み聞かせ、各学年読書に関する読書発表、葉のプレゼントなど)、イラストコンテスト、授業に関連した図書の展示など、児童が読書に興味を持つような読書に関連した行事の充実を図ります。
- 学校図書館に親しみ、利用マナーの向上のための図書館オリエンテーションを実施します。
- 親子読書推進のため授業参観に合わせ図書の展示を実施するなど、各学校の実情に応じて、家庭での読書を促進します。
- 定期的に学校図書館だよりの発行をします。
- 将来子どもたちが地域の図書館を活用できるように図書館との連携を深め、図書館の利用について呼びかけます。
- 地域ボランティアグループと連携・協力して、子どもの読書活動を推進します。

- 地域開放を行っている南部小学校図書館では、おはなし会や廃棄雑誌のプレゼントの実施・図書館だよりの発行など行い、学校図書館の利用促進を図ります。
- 蔵書構成の見直しを図り、読書意欲を喚起させる図書や各教科の学習を進める上で必要な最新のデータが掲載されている参考図書を購入して、図書資料の充実を図ります。
- 新学習指導要領に対応した図書を収集します。
- 子どもが図書館に親しめるような明るい図書館の雰囲気づくりや本を探しやすくするための配架の工夫をこらし、各学校の特色を生かした環境整備に努めます。
- 充実した資料を保存できるスペースの確保に努めます。

3-2 中学校における子どもの読書活動の推進について

- 生徒の成長や環境にあった読書指導をします。
- 毎朝、一斉読書(朝読書)に10分間取り組み、一層の普及を図ります。
- 図書館利用のオリエンテーション、図書委員会による図書館の日や読書週間・読書旬間(具体的には図書委員や先生方による本の紹介ポスターの掲示、各クラスへのブックデリバリーなど)、生徒の読書体験の情報交換など生徒が読書に興味を持つような読書関連行事の充実を図ります。
- 図書館掲示板を使い、購入図書・推薦図書の紹介、各種ポスターや新聞等の展示や掲示を行い、図書館からの情報を随時提供します。
- 定期的に図書館だよりを発行します。
- 小学校や村図書館など関係機関と連携し情報交換や相互貸借を行います。
- 充実した資料を保存できるスペースの確保に努めます。
- 生徒の心の糧になったり、読書意欲を喚起させられると思われる図書や、最新のデータが掲載されている図書を購入して、図書資料の充実を図ります。
- 新学習指導要領*に対応した図書を購入します。
- 蔵書数が「学校図書館図書標準」に達するように、足りない分野の資料の充実努めます。
- 地域ボランティアグループと連携・協力して、子どもの読書活動を推進します。
- 生徒が図書館に親しめるような明るい図書館の雰囲気づくりや本を探しやすくするための配架の工夫をこらし、学校の特色を生かした環境整備に努めます。

4 地域における子どもの読書活動の推進

4-1 図書館における子どもの読書活動の推進について

(1) 子どもの読書活動の推進における図書館の役割

図書館は幅広い分野の本が置いてあり、子どもが自由に本を選び、読書を楽しめる場所であり、子どもや保護者、保育園、学校、保健センター等の読書活動を支援する読書施設として、中心的役割を担っています。

(2) 図書館における子どもの読書活動推進のための具体的な取組

- 乳幼児・小学生を対象にしたおはなし会を実施します。
- 年齢別子ども向けおすすめ本のリストの提供や、おすすめ本を紹介した図書館だよりを発行します。
- 援助の必要な子どもにあった本の提供や、館内利用の際の介助をします。
- あらゆる場所で子どもがおはなしを楽しめるよう、おはなし会の出前講座を実施します。
- 読書感想文コンクールを実施して、良書に親しむきっかけを作ります。
- 地域ボランティアグループと連携・協力し、子どもの読書活動を推進します。
- 乳児から高校生までの幅広い年齢層の子どもにとって魅力的な図書館であるよう、子どもの興味や知的好奇心を満たす図書や調べ学習に必要な図書の収集に努めます。
- 南箕輪村ゆかりの作者や関連図書を収集・展示して、おはなし会などでは作品を取り上げます。
- 引き続き住民福祉課と連携して七ヶ月児相談にて乳児にファーストブックを贈り、新たに3歳児健診にて幼児にセカンドブック*を贈り、幼い頃からの家庭内における読書習慣づくりのきっかけを作ります。
- 保育園、学校、保健センター、子育て支援センター、地区公民館等の読書活動を支援できる図書の収集に努めます。
- 言葉の違う子どもやその親が必要な母国の絵本を収集したり、県立図書館や近隣の図書館から取り寄せて、必要に応じて保育園や学校に提供します。
- 中高生向けヤングアダルト図書*の充実を図ります。
- 子どもや保護者、関係機関からの本の相談に応じられるよう図書館員の資質の向上に努めます。
- 図書館だより、新聞、広報誌、ケーブルテレビ、ホームページにて、読書活動の啓発を行います。
- 子どもが図書館に親しめるような明るい図書館の雰囲気づくりや本を探しやすくするための配架の工夫をこらし、落ち着いて読書ができる環境整備に努めます。

4-2 保健センターにおける子どもの読書活動の推進について

(1) 子どもの読書活動の推進における保健センターの役割

保健センターでは、子育て中の親子が訪れて、心身の発育や発達についての相談に応じています。子育てに関心のある時期に、絵本の読み聞かせの大切さや絵本を通してのコミュニケーションの大切さを、直接保護者に伝えられる大きな役割を担っています。

(2) 保健センターにおける子ども読書活動推進のための具体的な取組

- 図書館と連携して、乳幼児健診・相談等保護者が集まる機会に、図書館司書による絵本の紹介、リーフレット等の活用をして、幼いうちからの絵本の読み聞かせの大切さについて伝えていきます。

○発達・子育て支援教室のなかで、子どもの発達段階に応じた絵本や紙芝居を読み聞かせを取り入れて、保護者とともに子どもの成長を支援していきます。また図書館利用につながるように、図書館利用の体験をしていきます。

VI 広報・啓発活動

1 広報・啓発の推進

(1) 「子ども読書の日」「村ぐるみの取組」を中心とした広報・啓発の推進

①「子ども読書の日」(4月 23 日)に、子どもの読書活動についての関心と理解を深めるために子どもを対象とした行事を実施して、広報・啓発活動を行います。

②村ぐるみの取組について広く周知するため、関係機関と連携を図りながら、広報・啓発活動を行います。

(2) 情報の提供

子どもが本を選ぶ参考になるように、保育園だより、学校図書館だより、図書館だより、広報誌、ケーブルテレビ、ホームページ等で子ども向けの本を紹介します。

VII 関係機関との連携・協力

1 連携体制の整備

本計画の推進に当たり、家庭、保育園、学校、地域(図書館、保健センター等)が連携・協力を図るため、関係者からなる「南箕輪村子ども読書活動推進会議」を設置し、必要に応じて推進会議を開き、総合的な推進体制が整備されるように努めます。

2 関係機関との連携・協力

(1) 家庭、保育園、学校、地域(図書館、保健センター等)の連携協力

子どもの読書活動を一層推進していくためには、家庭、保育園、学校、地域(図書館、保健センター等)がそれぞれの役割を果たしつつ、連携・協力していくことが重要です。このため、関係者が情報交換等や様々な相談を行います。

(2) 地域ボランティアとの連携協力

子どもの読書活動について、地域ボランティアと連携して、子どもの読書活動を支援します。また地域ボランティアが十分に子どもの読書活動を支援できるよう図書や図書情報の提供をします。

資料編

用語解説 （五十音順）

●朝読書

学校で全校一斉に行う朝の読書運動。読書を習慣づける目的で始業前に読書の時間を設ける運動。

●イラストコンテスト

自分で読んでもしくは好きな本（コミックをのぞく）の表紙や挿絵から絵を描き、おすすめ文を付けて、視覚的に本のイメージをふくらませて読書の輪を広げ合う活動。

●学校図書館図書標準

公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準。

●オリエンテーション

組織の仕組み・ルールなどについて説明すること。学校図書館においては、新学期に学校図書館の利用方法や決まりについて、児童・生徒に説明すること。

●子ども読書の日

4月23日。平成13年12月「子どもの読書活動推進に関する法律」により施行。子どもの読書活動についての関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めることを目的としている。

●新学習指導要領

文部科学省が告示する教育課程の基準である。小学校は平成23年4月から、中学校は平成24年4月から新しい学習指導要領が実施されている。新学習指導要領では、言語活動の充実が重視されている。

●セカンドブック

ファーストブックの次に子どもに贈る絵本。当村では平成25年度から平成22年度以降に誕生した3歳児を対象に3歳児健診時に絵本を1冊贈る予定。

●読書週間

一般的には10月27日から11月9日（文化の日を中心とした2週間）まで、読書を推進する行事が集中して行われる期間。当村では、各学校により独自に目的や期間（1週間～2週間）を設定して取り組んでいる。

●読書旬間

読書週間より長い期間で読書を推進する行事をする場合に言う。読書週間同様、各学校により独自に目的や期間（10日～14日）を設定して取り組んでいる。

●読書郵便

友達へ向けて読んだ本の感想を葉書に絵と文章で書き、読書の輪を広げる活動。

●パネルシアター

パネル布を貼った舞台に絵を貼ったり外したりしておはなしや歌を展開する。

●ノーテレビデー・ノーゲームデー

テレビを見たり、ゲームをしない日

●ファーストブック

赤ちゃんに贈る初めての絵本。

●ブックスタート

自治体が行う0歳児健診などで、絵本を開く楽しい体験とともに、赤ちゃんに絵本を渡す運動。当村では、7か月児相談に実施。

●ブックデリバリー

学校図書館の本をクラスに置いて、「学級文庫」を一時的に設置すること。

●ブックトーク

特定のテーマに沿って複数の図書を読み聞かせなど様々な手法を使って紹介して、読書の動機づけを図る。

●ペープサート

紙人形劇。人物や動物の絵などを描いた絵に棒をつけたものを動かして演じる。

●ヤングアダルト図書

13歳～18歳（中学・高校生を中心とした年代）までの人たちに提供する本。